

だいきこく通信 第十七号 「春の号」

だいこくわつ

日頃より当神社での神明奉仕にご協力を賜り、ありがとうございます。
社報「だいきこく通信」第十七号をお届けします。

東京は、二月前半に二度にわたって記録的な大雪に見舞われました。交通網が大きな影響を受け、この町が改めて雪に対して脆弱であると思われられました。日本全体が気候変動の時期に当たっているようでもあります。さまざまな自然現象に対する備えを真剣に考えていかなければと感じた次第です。

本年最初の通信は、催し物のご案内、神社のご祭神などについてのご紹介です。今年は昨年続き、さまざまな催しを試みてまいりたいと存じます。日頃の祭事、催し物を通じて、広く崇敬者の皆様、地域の皆様に、少しでも当神社を身近に感じていただけるよう、努力する所存です。今年もご指導ご鞭撻のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

大國神社 宮司 大島資生



大國神社の今

(1) 「第三回だいきこく落語会」を開催します



昨年五月、十月に引き続き、古今亭菊乃丞師匠をお迎えして第三回だいきこく落語会を開催することとなりました。今回も、江戸情緒あふれる巧みな話芸をお楽しみいただければ幸いです。お席に限りがございます。参加をご希望のかたはどうぞお早目にご予約ください。(詳細は次ページ)

〔催事詳細〕
第三回だいきく落語会

古今亭菊之丞落語会

日時 五月二十四日(土) 午後六時半(午後六時開場)
場所 大國神社 拝殿
会費 千円(予約制)
ご予約 電話 080-11987-8716
(もしくは直接社務所へ)

※会場の都合により、先着二十五名様とさせていただきます。五月十七日(土)まで受け付けます。ただし、定員に達し次第、受け付け終了となります。なにとぞご了承くださいませ。

古今亭菊之丞プロフィール

昭和四十七年十月生まれ 平成三年 古今亭圓菊に入門、平成六年二ツ目昇進、平成十五年 真打昇進。平成十年 北とびあ若手落語家競演会北とびあ大賞、平成十三年 市川市民文化賞奨励賞、平成十四年 NHK 新人演芸大賞落語部門大賞、平成二十年、二十一年、二十三年国立演芸場花形演芸会金賞。平成二十四年度芸術選奨文部科学大臣賞新人賞、落語協会所属。希望郷いわて文化大使。CD「古今亭菊之丞名演集1く5」、DVD「古今亭菊之丞落語集 明鳥／二番煎じ」「古今亭菊之丞落語集 景清／酢豆腐」ほか多数。著書『こいうい見』(WAVE出版)

(2) 境内の庭園灯を増設しました
夕刻の催事などに対応して、鳥居脇に庭園灯を一基増やしました。これからも、お参りしていただきやすい環境を整えてまいります。お気づきの点など、どうぞお知らせくださいませ。



お宮あれこれ 神社のご祭神と氏神様

神社には必ず特定の神様がまつられています。このような神様をその神社のご祭神といえます。当神社のご祭神はオオクニ又シノミコトです。今回はご祭神と氏神様についてお話しいたします。

「神社のご祭神」

大昔、神社が社殿などはつきりとした形をもつ以前、人々は山や木、川などに宿る神様を信仰していました。奈良県にある

おおみわ

大神神社は、三輪山をご神体としており、このような古い信仰の形を残しています（写真）。

古代の人々は、人間の力をはるかに超えた自然を神として崇拜していました。その中で多く

の神様、つまり八百万の神々が生まれていったのです。それで、当時は神様を信仰する場合、地名などに「神」をつけて「○○神」のように呼び、その土地にあらわれた神と考えていたようです。この神様は、主として自然を象徴する存在とされる一方、その地域を治める神（地主神）、あるいは一族の守り神（氏神）でもありました。

八世紀（奈良時代）に編纂された『古事記』『日本書紀』『万葉集』『風土記』などをみても、祭神名が明らかにされている神社は伊勢の神宮などに限られており、ごく少数です。

その後十世紀以後になると、『古事記』『日本書紀』に登場する神様の名前がさまざまな文献にあらわれるようになります。また、全国的に有名な神様を勧請する、つまり、大きなお社のご祭神の分霊をほかの地に移してお祀りすることもよくおこなわれるようになりました。代表的なものが八幡様やお稲荷様などです。このあと、長い年月をかけて、それぞれの神社ごとに



特色あるご祭神が定まっていきました。

「氏神様」

神社についてよく、「氏神様」「産土様」うぶすな「鎮守の神様」ちんじゆといったことばが使われます。「氏神」というのはさきほども少し触れたとおり、同じ一族が共同でお祀りした祖先神あるいは守り神のことです。「産土神」というのは、人々が生まれ育った土地の守り神です。また、「鎮守の神様」というのは、国や地域など、一定の区域や場所を守る神様のことを言います。このように本来は別の神様を表わしていたことばですが、時代の流れの中で、同じ意味で用いられるようになりました。氏神様の鎮座する周辺の、決まった地域に住んでいる人を「氏子」と呼びます。

なお、由緒によって氏子を持たず、もっぱら個人的な信仰によって崇敬する神社もあります。このような神社を「崇敬神社」と言い、そして、その神社を崇敬する人を「崇敬者」と呼びます。当神社は崇敬神社です。お住まいになつていらっしゃる地域の氏神様は地域の守り神、崇敬神社は個人の信仰心によりどころです。二つのお社は、信仰のあり方が異なるものですので、ともに信仰することは、なんら問題ありません。



祭礼・祈禱などのご案内

○次回甲子祭

平成二十六年四月二十三日（水）

（ご）祈禱時間 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日（午前六時～正午まで）

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは以下の電話番号に
お願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージの
あとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のち
ほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈禱受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮
参りなど、随時祈禱を行なっております。祈禱日時については、
お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

○三三三九一八七九三〇

お急ぎの場合は携帯電話へ

○八〇一九八七七八七二六

メール daikokujinja@gmail.com

次号発行予定

「だいきく通信第十七号」、いかがでしたか。次号「夏の号」
は、平成二十六年六月二十二日の甲子祭に発行予定です。

「だいきく通信」第十七号 平成二十六年十二月二十二日発行
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇〇〇〇三 東京都豊島区駒込三二二一

<http://www.daikokujinja.org>

